



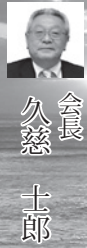
野田はまなす会会報

はまなす通信

No. 60 令和2年2月

発行：野田はまなす会
編集：野田はまなす会事務局 ☎0194・78・2963
(野田村役場未来づくり推進課)

新年のご挨拶



会長
久慈 士郎

会員の皆様、あけましておめでとうございます。

令和2年の希望に輝く、新しい年を健やかに迎えになったこと、心よりお慶び申し上げます。また、日頃より会の円滑な運営のために、多大なご支援とご協力を賜り、役員一同深く感謝を申し上げます。

元号が「平成」から「令和」に改まって初めての年明け、この「令和」の時代が穏やかで幸せの多い、明るい時代となりますよう会員の皆様とともにお祈りしております。

さて会員の皆様にとって昨年はどんな年だったでしょうか。昨年、昨年も自然の猛威に日本列島は脅かされました。8月の九州北部豪雨、10月の東日本を中心に甚大な被害をもたらした「台風19号」では堤防決壊など大規模な洪水被害や暴風による家屋の損壊、一部地域では長時間に渡る停電が発生するなど市民生活に少なからず影響を及ぼしました。

昨今の想定を超える風雨量の増大に対し、事前の備え、命を守るための迅速な避難行動・対応がいかに重要であるか、改め

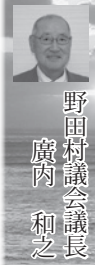
て気を引き締めねばとの思いがあります。被災された方々には心からお見舞い申し上げます。

明るい話題として、昨年はラグビーワールドカップに湧き、今年「東京2020オリンピック・パラリンピック」が開催されます。アスリートたちの活躍から力をもらえる、刺激のある躍動的な年になるのではないかと期待をしております。

野田村においても6月17日(水)聖火リレーコースとして十府ヶ浦海岸駅～野田村役場まで計画されております。会員の皆様も思い出として、記念すべきイベントにぜひ見学参加されてみてはいかがでしょうか。

最後になりますが、会員の皆様、そして野田村民の方々のご多幸と野田村の益々の飛躍をご祈念申し上げます、新年のごあいさつといたします。

新年のご挨拶



野田村議会議長
廣内 和之

野田はまなす会の皆様には、健やかに過ごされたこととお慶び申し上げます。私ごとでございますが、貳又正人前議長がご勇退されました昨年7月の野田村議改選におきまして、議長を拝命しました廣内でございます。浅学非才ではありますが、

その責任の重さを強く受け止め、東日本大震災から9年、4年前の台風10号、昨年の台風19号と度々の災害からの復興完遂はもちろんでありますが、既存の山積課題についてもしっかりと見据え、議会の役割を認識し、村民の負託に応えるべく、議員一丸となって取り組んでまいります。皆様におかれましては、今までも増してのご理解と、ふるさと野田に対するご提言をお願い申し上げます。

また、令和2年度は、三陸沿岸道路が開通となります。東京オリンピック・パラリンピックイヤーです。急ピッチで進められる準備等も整いつつあり、開催が近づくにつれ何かと忙しくとも、楽しみ多き年であろうかと存じます。

ふるさと山に向かい
ふるさと山はありがたきかな
言うことなし

石川啄木

子供の頃親しんだ「わさらび山」への思い、遠く離れた都会、その歳月。自然豊かな野田の山・川・海はいつでも皆様を歓迎しております。

本年が災害のない、事故のない、穏やかな年でありますよう、また、野田はまなす会のますますのご発展と会員の皆様、そしてそのご家族様のご健勝とご活躍をご祈念申し上げます。

日帰りレクリエーション

鶴岡八幡宮参拝・

鎌倉市、小町通り散策



志村良子
北区出身・
野田中平成2年卒

令和元年になって初めての「野田はまなす会 日帰りレクリエーション」は、令和元年10月6日(日)鎌倉市を舞台に実施いたしました。今回は表題の通り「鶴岡八幡宮参拝と小町通りの散策」そしてお楽しみの「参加者の懇親会」として行われました。現地の鎌倉駅に10時集合で参加者は21名でした。

当日は天候にも恵まれ、鎌倉



鶴岡八幡宮の鳥居

駅から10分足らずの鶴岡八幡宮まで、参道である若宮大路を歴史を感じながら皆さんとゆっくり歩いて行きました。この神社は、全国的にある「八幡様」です。八幡様の起源は大分県に鎮座する宇佐神宮です。平安時代に国家鎮護のために京都に石清水八幡宮が勧請されました。そして、八幡太郎義家として名高い源義家が源家の氏神として鎌倉に勧請し、新たに鎌倉幕府の初代将軍である源頼朝によって造られたのが、今回私たちが参拝した「鶴岡八幡宮」です。また、平成22年3月に樹齢1000年と言われる大銀杏が強風で倒れ、再生が危ぶまれていましたが、なんと元あった場所から移植した木や元の木の根元のひこぼえが芽吹き、新たに生長しているのには大変驚きました。この日は日曜日でもあり、神社では七五三のお祝いや結婚式を挙げる方、たくさんの方の外国からの観光客で大変賑わっていました。

次に、伝統を感じさせる小町通りの商店街でお土産を買いながらゆっくりと散策しました。

続いて、楽しみにしていた懇親会です。鎌倉駅の近くのお酒屋ランチでおいしいお酒とお料理をいただきながら、和やかに積もる話に花を咲かせました。歩き疲れた後のお酒が五臓六腑

に染み渡りました。神のご加護を願いながらの楽しい日帰りレクリエーションでした。鎌倉の大仏も見学したかったのですが、時間の関係で今回の機会に譲りました。

令和2年度も10月4日(日)に楽しい企画を考えていますのでお友達を誘ってたくさんの方に参加してほしいと願っています。役員一同、心よりお待ちしております。

会員の声

「野田と私」



坂本 悟
新山出身・
野田中昭和40年卒

生を受けて70年、令和元年8月に、野田中学校卒業の同級生が、野田、えぼし荘に集まり、「古希を祝う会」がありました。

東日本大震災があり、野田村の皆さんは、まさに晴天の霹靂、身内も含めて本当に大変な8年有余の間、よく耐え、よく頑張

り、再び野田村を蘇らせていただきました。やっと笑って皆に会えた大切なひとときでした。この歳になっても、皆で会っておしゃべりしていると中学生のあの頃の表情がそれぞれの顔に



おいしいお酒でのどを潤しました

あふれて出ていました。思えば、高校卒業の時、いったい私は何ができるだろうかと考えた結果、やはり上京でした。高校が家政科でもあった関係で食べることでの仕事が目に入り、給食会社を選び入社に至りました。

一年目は川崎市の三菱石油製油所の食堂に配属、2年目は会社の奨学制度にパスし、昼は新宿の栄養学校へ、夕方から出入り会社の社員寮の夕食の手伝い、9時まで仕事。と言う生活を2年間続け、栄養士の資格を取得しました。4年目からは晴れて栄養士として何力所かの現場で仕事をさせていただきました。

日曜日は、原則として休日でしたので、上京している同級生と会ったり、関東圏に住んでい

た姉の所に行くのが楽しみでした。

無条件で私を受け入れてくれた野田の浜、築港、和佐羅比山、駅からの長地、家から見える十府ヶ浦の防潮林の松林に癒やされてきました。その頃両親から何回となく言われていたことは「死んでから来ても仕方ないから、生きているうちに帰ってこいよ。」と言われ続けていました。この言葉がいつも心に残っていました。「帰れる時はがんばって帰る」ことが親孝行と思い続けていました。結婚して子どもが二人になり、夫の赴任先の熊本県から夫はおいて、子ども連れで飛行機に乗り、羽田で乗り継ぎ、三沢まで行き帰省したこともありました。ボーナスが飛行機代に消えたと言はばやいていました。

今は、両親も逝き、兄弟だけのふるさと野田ですが、やはり一年一回は帰らないと落ち着きません。お墓参りと兄弟の家を一回りし、野田のお土産として、思い出多い「あんずきまんじゅう」と「豆しつとき」等を買って帰るのがここ何年か続いています。

これからはきっと、お世話になっっている「野田はまなす会」が私をふるさと野田へずっと誘ってくれることでしょう。



久慈ふるさと会の皆さんとの記念撮影

友好団体 「久慈ふるさと会」 との交流

会長 久慈士郎

令和元年11月9日(土)、中野サンプラザにおいて「久慈ふるさと会(佐々木務会長)」の総会及び懇親会が50余名の出席者で開催されました。野田はまなす会もお招きいただき、私

久慈士郎が出席しました。久慈ふるさと会とは野田はまなす会が創立された時から今日まで、いろいろな情報を交換しながら友好関係を続けてきました。久慈ふるさと会は昭和30年

代、中学校を卒業し、多くの生徒が集団就職で関東圏に來た頃、作られたのが始まりとされています。野田でも野田玉川の出身者が中心になって「わさらび会」を作った頃です。「わさらび会」も紆余曲折があり、まもなく消滅しました。その後、「久慈地区ふるさと会」になって、野田村出身者もこの会に入るようになりました。しかし、平成元年に「野田はまなす会」が設立されて、だんだんと野田出身者は「はまなす会」に移りました。数年前から「久慈地区ふるさと会」は「久慈ふるさと会」となって今に至っています。かつての「久慈ふるさと会」は会員も多く、会はいつも立ち見ができるほどの盛会でした。この度の総会・懇親会の参加人数はかつてほどではありませんが、和気藹々としていました。野田も同じですが、やはり若い人の参加が少なく、これからの課題のようです。お互いに情報交換しながら、会発展に努めたいと思います。

第3回役員会

総会・交流会と日帰りレクの日程を協議

令和2年1月12日、第3回野田はまなす会役員会が東京都千代田区虎ノ門の「目利きの銀次・虎ノ門店」において、役員14人出席の下、開催されました。坂本幹事長の司会で、以下の5項目が協議され、提案通り承認されました。なお、役員会終了後、同所で恒例の新年懇親会が行われました。

【協議内容】

- (1) 令和元年度日帰りレクの反省と令和2年度のレク内容について
 - ・鎌倉散策・鶴岡八幡宮参拝・懇親会、25人が参加し、成功裏に終えた
 - ・次回は令和2年10月4日、千葉県松戸市で「ふるさとの味を楽しむ会」として開催予定
- (2) 会報 No.60号発行について
2月中旬発行予定
- (3) 令和2年度 活動計画案について
- (4) 令和2年度総会・ふるさと交流会について
令和2年6月21日(日) 午後1時～
東海大学校友会「霞が関ビル35階」
- (5) 次回役員会について
令和2年4月5日(日)



協議を進める役員会の皆さん

2020年度・野田はまなす会

総会・ふるさと交流会開催のお知らせ

野田はまなす会総会およびふるさと交流会を下記により開催します。年一回のふるさと交流会です。野田村出身者や関心のある人など、どなたでも参加できますので、友人・知人を誘ってぜひご参加ください。

日時	令和2年6月21日(日) 午後1時～
会場	東海大学校友会館(霞が関ビル35階)
最寄駅	銀座線：「虎ノ門」出口5番・11番
(地下鉄)	千代田線・日比谷線：「霞が関」出口13番
	丸の内線：「霞が関」出口A 4
	南北線：「溜池山王」出口8番
	有楽町線：「桜田門」出口2番
費用	交流会費6千円・年会費3千円
	※今年学校を卒業された場合、無料です。

問い合わせ

会長 久慈士郎 ☎ 090・5567・5795
事務局 野田村役場未来づくり推進課
☎ 0194・78・2963



昨年の交流会では、会員の皆さんが楽しくふれあいました



75歳の同級会

(えぼし荘にて)

桜庭昌吾
中新山出身・
野田中昭和35年卒

野田中学校を昭和35年3月に卒業した私たちは令和元年が75才になる年でした。喜寿まで待たずに、元気なうちに集まろう

と言うことで、野田在住の同級生が計画してくれました。私たちの同級生は、卒業20周年、厄年、還暦、65才、古希と色々無理屈をつけては野田によく集まっています。その間に、泊まりがけで盛岡の温泉や関東地区在住の人で東京でも何回となく集まって同級会をやっています。

このたびの同級会は、令和元年6月8日(土)、国民宿舎「えぼし荘」で行い、29名(男性17名・女性12名)が参加しました。

野田にいる同級生が全て準備してくれて、幹事に感謝です。会場まで遠いので、野田村役場前に用意されたバスで移動しました。会場に着いて、しばらくすると、もうみんな小学校、中学校時代の顔になっていました。

今回は柔らかな響きのあるマリンバ(木琴に似た楽器)のソロ演奏があり、しばし品格ある高級なひと時を過ごしました。その後は堰を切ったようにその頃の懐かしい話を、今とばかりに語り合い、あつという間に時が過ぎていきました。どの

顔も満面笑顔で満ち足りた顔でした。こんな時を持つのが元気の源なんだとつくづく思いました。

75才の私たち同級生みんなに、大きな福や心の宝がいつぱい舞い込むようにと同級生二人が赤い頭巾をかぶりめでたい大黒天の姿になり、赤い艶やかな衣装に身を包み、手には打ち出の金の小槌を持って舞ってくれました。ほんとに元気をもらいました。

楽しい時は早く過ぎるようで、えぼし荘は定刻で終わりました。しかし去りがたく、

みんなで農家レストラン「つきや」での二次会に行きました。ここでも良く飲み、たくさんしゃべりました。「つきや」は、明内地区の秋田にあります。同級生の奥さんが経営している

「畳の間」の食堂でした。ヘルシーな田舎料理として評判が高いので、会員の皆さんも帰郷の折は行ってみてください。さて、この歳になって、ちょっと寂しかったのは、同級会をやることに少しづつ参加者が減る

ことでした。野田中学校を卒業の時に152名いた同級生も、だんだんと黄泉の国へ旅立ち、現在127名になりました。

人生100年の時代が到来すると言われていきます。高齢者だからと言って家に引きこもっていは元気が失われます。「適度な緊張と多くの人との交流」を心がけて、2年先の「喜寿」の集まりに元気で参加したいと思っています。

あとがき

◆令和元年度もまもなく終えようとしています。「令和」に改元して初めての年度は、皆さんにとってどんな年でしたか?消費税10%引き上げ、野田にも被害をもたらした台風19号の河川氾濫など生活に関わることもたくさんありました。

◆驚いたのは、アメリカ大統領がイラクのナンバー2の軍司令官を空爆暗殺したこと、イランは弾道ミサイル十数発を報復攻撃。今後、全面戦争の火だねにならなければいいかと願うばかりです。

◆嬉しいこともありました。年末の12月9日、日本テレビ



会場となった国民宿舎えぼし荘

放送の「女性芸人お笑いグランプリ」に野田村玉川出身の南川泉さんが「123☆45」のコンビで出演しました。全国627組から10組の決勝に勝ち残り出場しました。

◆「123☆45」には野田はまなす会のふるさと交流会にも何回も来て、楽しいお笑いを振りまいて、会を盛り上げたいただきました。野田村のマスケットキャラクターの「のんちゃん」をプリントしたTシャツ姿で、野田なまりネタで笑いをとり、一人勝ち抜きました。残念ながら優勝には至りませんでした。でも好演技で大変立派でした。

(S・S)